

若い先生たちの取り組みに拍手 みんなで学び・交流しました

小学校高学年の2つの実践報告は、ともに先生の考えと子どもたちの姿が見えるいきいきとした報告でした。共同の授業づくりや教材研究や教材提示、他の教科への広がりなど、大事な問題提起がありました。活発な意見交換があり、実践をまとめ共有していこうと提案されました。

講座①

6年生と学ぶ「戦争中のまちと子どもたち」

釜池 潤世さん（堺市立美木多小学校）



戦中の写真や資料の提示を工夫し、「戦中の堺に空襲被害があったなんて知らなかった」、「学童疎開生が美木多に来たってほんとう?」「その人達に会えるの?いっぱい聞いてみたい・・・」と興味づけ、体験者のお話を聞いています。堺市初等教育研究会



の社会科部会公開授業は、学級全体で聞きとったことを共有しながら話し合っていない授業でした。

地域を大切にしたり取り組みで、職場や社会科部会でも注目されました。

小学生のアジア太平洋戦争についての学習について、学びあうことができました。

講座② 5年社会科・総合 米作りを話し合う」の授業づくり

黄潤皓さん・岡崎謙太郎さん（大阪市立榎並小学校）

総合的な学習で米作りをテーマに、若い教員達が子ども達と試行錯誤しながらの取り組みを報告。バケツ稲栽培から日本のコメ作りまで、悪戦苦闘しながら



も楽しく意欲的な活動の報告で、子ども達と先生達のがんばりに共感が寄せられました。

自分のイネを育てて米に興味を持ち続け、お百姓さんのお米が「10倍もすばらしい」ことを知るとともに、大阪で米作りをする厳しさと続けている喜びやほこりを知っていく。「米について知りたいこと」「これからの日本の米作り」と問題意識が連続するよう努力した報告でした。



勉強になった。今後の授業に生かしていきたい・・・ いただいた感想から

「自分の研究授業を振り返る機会を与えて頂き、ありがとうございました。社会科の難しさをあらためて確認することができました。」

「報告することでさらに学習できました。ありがとうございました。」

「具体的な地域の人々からの学びにより、教科書で学ぶだけでは得られない、豊かな学びになったと思います。小学校でこそ出来る、子どもたちが意欲的に取り組んだすぐれた実践だったと思います。若い先生方の頑張りにいつも励まされます。」

「戦争をどう教えるのか、今、聞き取ることがむずかしくなっている中、学童疎開などとのつながりの人の話を聞いたりしていく、いいなあと思いました。歴史が自分の生活や地域の中にもこそあるということ、気づけることが大切だなあと改めて感じました。ほんまものもいいですね。」

「米の学習を社会科の学習として、どう考えるかなど、ていねいに実践を積み重ねていくことも重要だと思いました。」

